

2025 年度 第 1 回 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2024 年 7 月 10 日（木） 15：00 ～ 16：00

会 場：岩国 Y M C A 保健看護専門学校 1 階 会議室

参加者：木谷 秀規 様 明治安田生命保険相互会社徳山支社岩国営業所 所長

浜 佳恵 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

矢野 匡亮 様 社会福祉法人光葉会 理事

江見 享子 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 校長

沖島 均 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 保健看護学科学科長

欠席者：安田 真弓 様 岩国市健康医療部健康推進課 副課長

矢野 結花 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 看護学科学科長

報告および審議事項

1) 2025 年度 学生状況について

今年度の入学生は、保健看護学科 28 名、看護学科 10 名の計 38 名であった。昨年保健看護学科は 29 名でしたので 1 名減、看護学科は 14 名でしたので、こちらは 4 名減と両学科とも昨年の数を下回った。ちなみに学生総数は 154 名で昨年度の 179 名から 25 名減となっている。新入生の減少の主な要因については、保健看護学科については周南公立大学や岩国看護学校等の競合校との競争の激化が考えられる。今年の新入生 28 名の内、山口県出身者が 8 名、広島県出身者が 20 名ですが、昨年山口県出身者は 12 名いましたので 4 名減り、逆に広島県出身者が昨年の 17 名から 3 名増えて 20 名になっています。看護学科については准看護師の養成校の閉校が続いており、また 1 番の重点校である柳井学園高校の衛生看護科の生徒も減少傾向にあり、大変厳しい状況が続いている。そのような募集が厳しい状況ではあるが、昨年度ぐらいいから W E B 広告等を中心に募集活動を継続している。また今年度は新たな取り組みとして、開校して初めて高校の先生方を対象にした学校説明会を 6 月 19 日に開催した。参加したのは 7 校ではあったが、高校の先生方にも本校のことを知っていただく良い機会名なので、今後も継続していこうと考えている。

〔質疑応答〕

委員：入学生が定員割れとのことだが、他の学校の状況はどうなのか。

学校：全国的に専門学校は一部の学校を除き、定員割れを起こしている。定員を満たしている専門学校は病院附属で学費などが私学に比べてかからない。また看護師の教育課程は、保健師助産師看護師法の指定規則で学ばせることが大枠定められており、その三分の一は臨地実習である。私学である本校は実習施設をもっていないため、日数の少ないものも含めると約 40 施設へ臨地実習に出向いている。附属の学校であれば、ほとんどの実習をそこで行えるといった点などが魅力となっていると思う。

ただ、本校は実習施設が多いが、そこで様々な経験ができるといった部分を広報している。また、大学でも定員割れは起きており、広島県内であれば定員充足しているのは 2 校だけとなっている。

委員：就職先についてはだいたい行くところは決まっているのか。

学校：特に決まっていはいない。学生が地元であったり、実習病院であったり自分たちの希望で受験をしている。

2) 2025 年度学校運営目標について

3) 2025 年度学科運営目標について

詳細は別紙資料参照

報告：今年度4月から空き教室の利用として、I T関連企業「デジタルギア」が6 Fの使用開始となった。

質問は特になし。

4) 2024 年度学生実態・満足度調査について

詳細は別紙資料参照

〔質疑応答〕

委員：6 Fの企業や7 Fの高校などが入ったことで、学生から何か意見はあったか。

学校：6 F・7 Fに学校関係者以外の団体様が入ることについては、説明をしている。そのことで、学生・保護者から何か意見があったことはない。

しかし、セキュリティの点で本校の学生・教職員も含めて外部の方にも名札をつけることをお願いしている。

5) カリキュラム進捗状況

(1)保健看護学科

「成人・老年看護学実習Ⅲ」について説明した。患者さまや学生の反応から当初考えた目的が達成できる実習であり、それについての評価をしていく予定である。

(2)看護学科

「看護技術統合演習」について説明した。学生の援助場面をタブレットで撮影し、リフレクションを行う学習方法は、座学だけの講義よりも効果が得られるため、今後ブラッシュアップをしながら広く講義・演習に取り入れていく予定である。

〔質疑応答〕

学校：「成人・老年看護学実習Ⅲ」は、患者さまの転棟にあわせて、受け持ちをさせていただいている学生が一緒についていくという、これまでしたことのない方法で実習を行わせていただいた。もちろん本校でも初めて、他の学校でもしていない形の実習であるが、協力していただいている病院の指導者様から何かこの実習についての意見などはないか。

委員：初めてこの実習の話を聞いたとき、病院側としてどのような対応をしていけばいいのかイメージができず、指導者もとまどっていた。しかし学生が手術から回復期までそれまでより長い期間を同じ患者を受け持つことができることから、実際の援助がそれまでよりもできるようになったときいている。実習開始から約一年経ち指導者側も、慣れてきたようである。

2025 年度 第 2 回 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2026 年 2 月 20 日（金） 14：55 ～ 15：55

会 場：岩国 Y M C A 保健看護専門学校 1 階 会議室

参加者：木谷 秀規 様 明治安田生命保険相互会社徳山支社岩国営業所 所長

浜 佳恵 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

矢野 匡亮 様 社会福祉法人光葉会 理事

安田 真弓 様 岩国市健康医療部健康推進課 副課長

江見 享子 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 校長

沖島 均 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 保健看護学科学科長

矢野 結花 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 看護学科学科長

報告および審議事項

1) 学生状況について 資料参照

〔質疑応答〕

特になし

2) 2026 年度 入学募集状況について 資料参照

現在のところ 2026 年度入学予定者は、保健看護学科 22 名 看護学科 6 名である。明日 2 月 21 日入学試験を行うが、受験予定者は保健看護学科 2 名 看護学科 1 名で、3 月に最後に 1 回入学試験を行う予定である。

保健看護学科については、出願の高校を数でみると昨年度と比べて、山口県からの出願数は微増で広島県からの出願数が減っている。昨年は広島県の 2 つの高等学校から複数名出願があり、全体として出願数が多かった。出願高校数で比較した場合は今年の方が多い。

看護学科は、近隣に准看護師養成所がなく柳井学園からの入学者がほぼ全体を占めている。

〔質疑応答〕

委員：倍率はどれくらいか。

学校：定員も割れており、全入となっている。

委員：受験者全員合格できるということか。

学校：面接で対人コミュニケーションに問題がみられるようであれば、目指す職業から考えて検討対象とはなるが、そのようなケースもない。また学力試験についても、全員基準に達しているため、全員合格となっている。

委員：岩国市内高等学校からの志望はあるのか。

学校：あります。

3) 各学科の今年度の取り組み 資料参照

〔質疑応答〕

委員：様々な取り組みをされているが、これは毎年カリキュラムとして新たな取り組みをしているかなければならないものなのか。

学校：カリキュラムは、厚生労働省・文部科学省からの法令の改正として出されるもので、その時代の社会背景などを踏まえて、こういった力をもつ看護職を育成しなさいと基本的な目標が出される。カリキュラム改正の周期は一定していないが、今回のカリキュラムとなり4年が経過した。本校の保健看護学科の修業年限も4年だが一通りの教育を終えたところでその結果を評価していく時期に入り、実際に次のカリキュラムに向けての検討も始まっている。

今回の保健看護学科の取り組みについては、新カリキュラムを始めるときから、4年生の「チーム医療」はどう教育していくかを検討した経緯がある。

委員：今回の取り組みから、教育を充実させるために何を経験させて学ばせていくか様々な工夫がされていると思った。

委員：「チーム医療」の教育から、何をどう学ばせていくのかを考えられている。学生さんたちがいろいろなものを見たり、考えたりすることを促しながらそれを相手にも伝えられるように育ててほしいと思う。

4) その他

委員：以前、産科の実習は周南までいっていると報告を聞いたがそれは改善できているのか。

学校：現在も状況は変わっていない。周東総合病院の外来実習も今後難しくなってくるかと思う。

委員：岩国医療センターでの実習は難しいのか。

学校：保健看護学科は実習をさせていただいている。しかし附属の看護学校もあるため、難しい。

委員：就職内定状況の中にあった、進学2名はどこへの進学となるのか。

学校：助産師と養護教諭を志望している学生の進学である。

委員：その学生は、岩国市の奨学金を受けていないか。この奨学金にはそういった場合の猶予についてまだ整っていないので気になる。

学校：2名については、奨学金を受けている学生ではない。